

和歌山県立医科大学

2004 年度 医学部 前期日程 試験問題

設問 次の文章を読み、「いくつかの自分」というテーマで、あなたの考えを論じなさい（提出用紙にテーマを記す必要はありません）。

何千例と経験を重ねても、手術では思わぬ事態が起きることがあり、そのたびに、「決断」を迫られる。

先日、高齢の女性に、心臓を動かしたまま 3 ヲ所の冠状動脈にバイパス手術を行ったときのこと。血管同士をつなぎ合わせる吻合の際、1 ヲ所目では冠状動脈の壁が裂けてしまったので途中からやり直した。2 ヲ所目と 3 ヲ所目は心臓の裏側だったが、なんとかうまく縫えたように思えた。

「ひと安心」と思って、縫い付けたばかりのバイパス血管を指でつまんでみると……、カチンカチンに固まっている。血液がまったく流れていないのだ。これでは意味のない手術を患者に行ったことになる。「傷害罪」だ。

血管を縫い直すためもう一度心臓をひっくり返すべきか。それによって心臓の機嫌を損ねて取り返しのつかないことになるかもしれない。そうなれば「殺人」だ。

このまま手術を終了して、本人と家族に「手術は完璧でしたが、患者さんの冠状動脈が細いせいでバイパスは流れないかもしれません」と、もっともらしい言い訳をして切り抜けるべきか。しかしそれでは「詐欺」である。

迷いに迷ったあげく、もう一度縫い直すことにした。
幸い、何事もなく、私は「罪人」にならずにすんだ。

手術室には、「殺人」におびえる自分がいたし、「詐欺」を働こうとする自分もいた。そして、その両方を冷静に見据えるもう一人の自分もいた。

自分自身に縫い直しを決断させた自分があの時、手術室にいたことに、ほっとする。

筆者：南淵明宏（心臓外科医）朝日新聞掲載記事より（一部省略）